



# 東北支部年報

第 32 号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15

日本生命仙台勾当台南ビル 4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: [aij-tohoku@mth.biglobe.ne.jp](mailto:aij-tohoku@mth.biglobe.ne.jp)

<http://news-sv.aij.or.jp/tohoku/index.htm>

## 巻頭言

### — 「3. 11から1年」 —

東北支部長

田中 礼治

東日本大震災から1年が経過しました。会員の皆さんの中には被災された方も多くおられたのではないかと思います。いかがお過ごしでしょうか。復旧・復興は進んでおりますでしょうか。心配です。

東北支部では震災直後から被害調査を行い、その成果を昨年の7月発行の「2011年東北地方太平洋沖地震災害調査速報」で報告しました。この報告書は現在英訳中で近く海外へも発信される予定です。支部の各部会においても各種報告会が開催されています。これらの詳細な報告は東北の災害現場の生の報告ということで今後の日本の建築界に大きな影響を及ぼすものと期待しております。昨年の東北支部の年報(第31号)では「努力は報われる」ということを申し上げました。それが、今では「努力は必ず報われる」に変化し、努力の有効性を確信するに至りました。

最近日本は自信を失いつつあると言われていますが、被害調査を進めてみると日本建築学会をはじめ東北支部の会員の方々の努力が、いかに今回の地震で減災に寄与したかはかり知れないものがあることが分かりました。東日本大震災は私達のこれまでの努力の方向性が正しかったことを検証してくれました。

努力が決して無駄ではなかったことを教えてくれたと考えています。会員の皆さんもこれから自信をもって前進していただきたいと思います。

しかし、大きな被害が発生したことも事実です。これらの被害は、やはり多少努力が足りなかったためであると認めざるを得ません。この点については謙虚に反省し、より努力しなければならぬと考えております。特に、津波で建築物が多く被害にあったことは大いに反省しなければなりません。津波と建築物の関係は、これからかは土木だけでなく、建築に携わる我々も意見を出し、建築物の被害が生じないような方法を考えていく必要があると思います。

これまでの建築が建築基準法の範囲だけで仕事してきたことも大きな反省点なのかもしれません。これからは日本の住環境問題全般に配慮して努力しなければならないと考えています。そのためには、経済・産業などこれからの日本の在り方との関係にまで頭の中に入れて活動するように多少考え方を改めていく必要があるようにも思います。

ともかく、被災された方々が早急に元の生活に戻れるよう御祈り申し上げます。

#### もくじ

○巻頭言	1	○2011年度設計競技東北支部審査報告	8	○2011年度事業報告	17
○企画記事	2	○2011年度東北支部研究報告会報告	8	○2012年度事業計画(案)	19
○建築教育事業報告	3	○2011年度日本建築学会東北支部総会報告	8	○法人・賛助会員名簿	21
○第32回東北建築賞(作品賞)選考報告	3	○研究部会活動報告	9		
○第22回東北建築作品発表会報告	7	○支所だより	13		
○第31回東北建築賞表彰式及び展示会報告	7	○常議員会から	15		
○「作品選集2012」東北支部選考経過報告	7	○支部役員名簿	16		

## 「みちのくの風 2011 秋田」開催報告

常議員（総務企画） 五十子 幸樹

「みちのくの風 2011 あきた」は 2011 年 6 月 25 日(土)、26 日(日)の両日に秋田市の大学コンソーシアムあきたカレッジプラザで開催された。今年度は、第 74 回東北支部研究報告会、招待講演、パネルディスカッション、シンポジウム、第 31 回東北建築賞表彰式並びに受賞記念講演会と両日を通してのパネル展示会を行った。それらの概要について以下に示す。第 74 回東北支部研究報告会は、発表題数：119 題、発表会参加者数は延べ 209 名（25 日 103 名、26 日 106 名）であった。これらの発表論文は昨年度より電子投稿にて受付されることとなっていたが、電子投稿締切の 3 月 11 日 17:00 直前に東北地方太平洋沖地震が発生したため締切が一ヶ月延長され、改めて 4 月 11 日 17:00 まで投稿が受け付けられることとなった。震災の発生に伴う混乱があったものの、集められた原稿は日本建築学会東北支部研究報告集第 74 号 CD-ROM として無事刊行された。

招待講演は、まず 6 月 25 日(土)に計画・環境部門の講演が、西方設計の西方里見氏により「秋田地域の気候環境に根ざした設計」と題して行われ、これに引き続いて東北学院大学櫻井先生をコーディネーター、後援者の西方氏、建築学会設計協議会最優秀賞受賞学生 2 名および秋田県立大学松本先生をパネリストとしたパネルディスカッションが行われた。この講演およびパネルディスカッションには約 50 名の参加者があり活発な議論が行われた。翌 26 日には震災関連の招待講演およびシンポジウムが開催された。まず東京大学生産技術研究所准教授の腰原幹雄先生から、基調講演「東北地方太平洋沖地震の被害全体像と学会の対応」が行われた後、田中支部長、東北大学植松先生、仙台高等専門学校坂口先生、秋田県立大学石山先生を講師に迎えて講演が行われ、東北大学名誉教授柴田先生によりまとめの言葉が述べられた。震災をテーマとした講演・シンポジウムへの関心は高く、およそ 100 名の参加者を得て活発な議論がなされた。

第 31 回東北建築賞表彰式は 6 月 25 日に行われ、それぞれの受賞者の記念講演が行われた。また、25 日～26 日の期間中会場の交流スペースと廊下に、東北建築賞作品賞と JIA 秋田の作品を展示してパネル展示会とし、述べ約 250 名の参加者を得た。

懇親会は、26 日の 18 時 15 分からカレッジプラザに近い IYATAKA に会場を移して開催した。支部研究発表者、東北建築賞受賞者、地元関係団体、支所・支部関係者ら 62 名の出席を得て、親交を深めた。

最後に、「みちのくの風」の開催にあたり日本建築家協会秋田地域会の皆様には多大なご協力を頂いたことに心より感謝申し上げます。また、運営にご尽力頂いた秋田県立大学の先生方、秋田支所の関係各位にも謝意を表し、報告とする。

## 日本建築学会東北支部災害調査委員会報告

委員長 田中 礼治

2011 年 3 月 11 日に東北地方太平洋沖地震が発生した。東北支部では 3 月 21 日に日本建築学会東北支部災害調査委員会を設置し、東北地方の調査を開始した。4 月 6 日に建築学会会館ホールで「東北地方太平洋沖地震および一連の地震緊急調査報告会」が開催され、田中（東北工大）、源栄（東北大）、多田（防衛大）が東北地方の被害について報告した。

2011 年 7 月に日本建築学会より「2011 年東北地方太平洋沖地震災害調査速報」（以下速報）が出版された。東北支部での調査成果は、速報の「第 3 章 東北地方の被害」の中に報告されている。この速報に関する報告会が全国 9 会場で開催された。仙台では 8 月 4 日に行われた。東北支部では東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会（土木学会東北支部、地盤工学会東北支部、日本地すべり学会東北支部、東北建設協会、日本コンクリート学会東北支部、日本建築学会東北支部、日本都市計画学会東北支部の 7 団体により構成）に参加し合同調査を行った。

2012 年 3 月 1 日～2 日に建築会館ホールにて日本建築学会主催のシンポジウム「東日本大震災からの教訓 これからの新しい国づくり」が開催された。東北支部からは東日本大震災から一年と題して、田中（東北工大）、源栄（東北大）が報告を行った。2012 年 3 月 22 日に宮城県庁ホールで宮城県建築物等地震対策推進協議会と共催で「東北地方太平洋沖地震による建築被害報告会」を開催した。会場は満員になり、盛況であった。

現在、東北支部災害調査委員会は東北支部として後世に残しておかなければならないと考えられる被害調査資料を監修中であり、8 月末に出版予定である。また、東北支部災害調査委員会は 2012 年度も継続して活動する予定である。

「親と子の建築講座：  
中学生のための建築講座」報告

山形支所長 相羽 康郎

外構が未完成のため昨年度見送った企画を、外構の完成を待って今年度実施した。7月16日、南陽市宮内中学に直接出向いて相談し、親の集まる機会をとらえての実施は困難であり、授業時間を使うなら可能との判断を受け、その方向で実施する運びとなった。

夏休み後に中学校側から日程の打診があり、また保護者にも「学校だより」で周知して頂けることになった。

11月8日に、授業内容の概略をそれぞれ持ち寄って、この中学校を設計した本間設計で打ち合わせを行った。

当日の授業概要

日時：11月24日（木） 午前10:50～12:40

場所：山形県南陽市宮内中学校

講師：千田秀樹（本間設計）

相羽康郎（東北芸術工科大学）

参加者：中学1年生約120名、先生約10名、建築関係者等約10名

前半では、最初に中学校の設計・建設にあたって、どのくらいのお金、人、設計の時間を要したのかなどクイズ形式も交えて、建築設計の実際を理解してもらい、ついで設計で工夫した点、どうしてこの形になったのかなどを説明した。また、階段の手すりなどを作成した彫金作家が彫金の部材などを持参して登場し、休憩時間に触れられるようにした。

後半は、地の建築として街並みを、図として近代建築を挙げて、地の建築が縄文遺跡から白川郷や茅葺農家の現在まで



継続していることを説明した。近代建築が地を離れて際立った形態を単体で強調して屹立する様を、様式建築から、ガラス



と鉄の超高層、郊外一戸建てRCの箱など、図として成立させてきた経緯を、多数の作品スライドを使って示した。

また帝冠様式建築を山形県出身の伊東忠太が認めず、築地本願寺で独自の様式を示したエピソードも説明した。



第32回東北建築賞(作品賞)選考報告

選考委員長 小山 祐司

1、応募作品

・小規模建築物部門	10点
・一般建築物部門	13点
計	23点

2、選考経過

(1) 事前打ち合わせ会議 2011年9月1日（木）13:30～  
於 日本建築学会東北支部会議室

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

(2) 東北建築作品発表会 2011年9月24日（土）10:00～  
於 仙台市情報・産業プラザ6階セミナールーム

第22回東北建築作品発表会において応募23作品の発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

(3) 第1次審査会 2011年9月24日（土）15:50～  
於 仙台市情報・産業プラザ6階特別会議室

東北建築作品発表会終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第1次審査を行った。①企画力、②技術力、③地域への貢献・文化度、の選考基準を前提とし、2次審査対象作品として、約半数の10～12作品を選定するため、発表された作品について部門に関わらず1人10点ずつ投票を行った。その結果から、4票以上獲得した12作品を通過作品とし、得票数が3票、2票、1票、0票の作品を落選とした。以上の結果、小規模建築物部門6点、一般建築物部門6点の合計12点を第1次審査通過とした。

次に、現地審査は1作品につき2名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された12作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、作品管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行う事とした。

なお、1次審査の落選者へは200字程度の講評を審査委員分担任で作成し、審査委員会として送付することを確認した。

(4) 現地審査

現地審査については10月下旬から2次審査会（2012年1月28日）までの期間中で選考委員の中からの9チームで現地審査が行われた。

(5) 第2次審査 2012年1月28日（土）13:00～  
於：日本建築学会東北支部会議室

まず、小規模建築物部門作品について、一点ずつ、現地審査担当者から写真スライド等により報告を受けた後、作品に

についての質疑や審査委員の評価ポイント等についての討議を全審査員で行った。これにより 4 つの作品が入賞候補として選定された。

引き続き、一般建築物部門について同様に報告、討議を行った。その結果、作品賞として 4 点を選定し、作品賞には至らないが優れた内容を含む作品と思われた 1 点を特別賞に選定することとした。

その後、再度小規模建築物部門作品について作品賞として相応しいかどうか慎重に審議を行い、最終的に入賞候補の 4 点のうち 1 点については、評価ポイントが必ずしも作品から理解され難いことを踏まえ、特別賞に選定することとした。

以上の審議により、小規模建築物部門については作品賞 3 点、特別賞 1 点。一般建築物部門については作品賞 4 点、特別賞 1 点が入賞作品と決定した。

## (6) 選考結果

### 作品賞 7 点

#### 森を奔る回廊

【所在地】宮城県仙台市宮城野区  
【設計監理】(有)都市建築設計集団/UAPP  
【施工】(有)聖建設

#### 新田の家

【所在地】青森県青森市新田  
【設計監理】フクシアンドフクシ建築事務所  
【施工】(株)阿部重組

#### 長楽寺禅堂

【所在地】福島県福島市舟場町 3-10  
【設計監理】(株)竹中工務店 設計部  
【施主】(宗)長楽寺 代表役員 中野 重孝  
【施工】(株)竹中工務店

#### 鶴岡まちなかキネマ

【所在地】山形県鶴岡市山王町 13-36  
【設計監理】(株)設計・計画高谷時彦事務所  
【施主】(株)まちづくり鶴岡  
【施工】佐藤工務・鶴岡建設・マルゴ特定建設工事共同企業体

#### ねぶたの家 ワ・ラッセ

【所在地】青森県青森市安方 1 丁目 1-1  
【設計監理】molo・(株)ディーディーディー (仲田康雄)・(株)フランク・ラ・リヴィエレ アーキテクト  
【施主】青森市  
【施工】鹿島・藤本・倉橋建設工事共同企業体

#### 村山市総合文化複合施設「甌葉プラザ」

【所在地】山形県村山市楯岡五日町 14-20  
【設計監理】計画・設計工房+日総建

【施主】村山市  
【施工】村山建設共同企業体

#### 水の町屋 七日町御殿堰

【所在地】山形県山形市七日町 2-7-6  
【設計監理】本間利雄設計事務所+地域環境計画研究室  
【施主】七日町御殿堰開発(株) 代表取締役 結城 康三  
【施工】山形建設(株)

### 特別賞 2 点

#### 旧仙台領内の 300 年継承住宅

【所在地】岩手県胆沢郡金ケ崎町西根揚場 40-1  
【設計監理】大沼正寛+伊藤邦明都市建築研究所  
【施工】大成工務店

#### あきたチャイルド園

【所在地】秋田県秋田市土崎港西 3-8-28  
【設計監理】(有)サムコンセプトデザイン一級建築士事務所  
【施主】社会福祉法人風の遊育舎 理事長 澤口 勇人  
【施工】中田・瀬下特定建築工事共同企業体

## (7) 講評

### 作品賞

#### 作品名：【森を奔る回廊】

敷地に残る屋敷林の間に埋め込まれた平屋建ての住宅です。幅 3mx 長さ 2.6m のワンルームと直交する玄関、ガーデンテラスで構成されています。

建物は森の木々の木立の間に身を置こうと考えられ、地面より 1m ほど浮いてボリュームが設定されています。この操作は同時に、より木々の見える生活を演出する視線のコントロールとして、また、外部からの視線に住空間が晒されないよう、プライバシーの確保にも役立っています。都市化していく郊外において、古くからある屋敷林を活かして建てることは当然のことと考えることは容易いことですが、徹底してそれを行い、効果的なボリュームを設定しています。他所ではなく、まさにここに自然と一体化した環境をつくったことは作品賞の評価に値します。材料は最近の住宅に見られがちな経年変化しないフェイクとはちがひ、自然素材を中心に選定されています。東北では、このように自然と調和し、応答し合える空間をつくっていくべきだと思います。

#### 作品名：【新田の家】

「新田の家」は、青森駅から北西方向に伸びる幹線道路から少し奥まった場所に建っています。この地域は、昔の郊外の面影と最近の宅地開発の影響が重なる、まさに現代社会が凝縮された場所です。そこには、様々な年代のライフスタイルが積層しています。新田の家は、周辺と断絶するのではなく、昔ながらの近所付き合いを残しつつ、プライバシーを確保し、その上で明るい内部空間と雪国での快適な暮らし、これからの新しい

家族生活の希望を創出する空間構成への工夫が随所に見られます。特に中心となる十字の土間は、機能動線としてだけでなく、性質の異なる内外部の空間を緩やかに繋ぐ緩衝帯としてデザインされています。土間の交差する場所は、この家に住む家族にとって中心になることでしょう。元来、大黒柱は家族と建物の両方の面から家にとって重要なものでしたが、建物の大黒柱は消えつつあり、家族のかたちも変わりつつあります。この建物は、土間による空間の結節によって不可視の大黒柱を創り出して、住宅からの新しい家族像の構築に向けた挑戦になるものと期待します。

#### 作品名：【長楽寺禅堂】

福島市内の四百年の歴史を持つ曹洞宗・長楽寺の禅堂です。建物は、大通りから路地に入ると木立の中にその位置が確認されます。白い漆喰の壁とマッシブなボリュームですが、緑豊かな木立に支えられ、軽々と浮かんでいる印象的な景観を創っています。

浮かんでいるように見える2階部分は禅堂の基本である座禅堂であり、地上から離れていることやハイサイドライトから差し込む光により設計者のいう静謐性と高い精神性を表現しています。

1階における広間はガラスに囲まれた空間です。座禅堂とは正反対の空間の質を与えられていますが、周囲の緑豊かな屋外空間と融合することで自然の中にいる錯覚と修行に入る心構えを十分に感じさせます。それら空間の豊かさ・繊細さは設計者の高い技術力と十分に検討されたディテールによって表現され、結果として正反対の空間の質の実現が可能であったと思われまます。

宗教建築はより多くの人々に開放されるべきであるという考えは、この建物にも反映され、今後地域の方々との交流スペースとして、心の拠り所として、永らく愛されていくことを予感させる建物です。

#### 作品名：【鶴岡まちなかキネマ】

山形県鶴岡市の市街地活性化事業として、古い木造の織物工場が地域の資産として着目されたのは、地方のまちづくりとして重要な取り組みです。そして、設計者によってこの工場の持っていた建築的な価値が引き出され、多くの市民に利用される映画館になっています。

もとの工場としての建築を、映画館というボリュームある施設へ転換するのは容易なことではなかったと想像されます。しかし、原型を活かしながらも様々な工夫によって、他にはない個性的な映画館が生みだされています。

工場の時には天井に隠れていた小屋組みを現したことがこの映画館の一番の特徴となっています。また、トップライトを設けることで、建築の構造は鮮明になっており、この施設の持つ力強さと、歴史の重みを来館者に伝えています。

地域の歴史を確認しながら、新しい文化をつくっていくことで、建築がまちづくりへ貢献していくための重要な役割を担うことを見せてくれる作品です。

#### 作品名：【ねぶたの家 ワ・ラッセ】

青森駅から港の方向に向かうとすぐに赤いキュービク状の、しかし柔らかい緞帳のような物体が見えてきます。この辺りにはベイブリッジや青函連絡船、連続切妻屋根の観光センターや観光物産館の巨大な三角形などさまざまな形が近距離にせめぎあっていますが、さらにここにねぶたを収める家をつくろうとしたときのこの方法は適切であったと感じました。象徴的な色と動きのあるスクリーンには連絡船やねぶたの躍動感、そして『大切なものが入っている』がイメージでき、展示されているねぶたが毎年変わる固定されたものでないことを素直に見て取ることができました。さらに完全に閉じた展示室にしないで外にも雰囲気を与えようとしたこと、ねぶたにまつわる市民活動が常にこの家で行われていることにも共感できます。ただし、周囲をめぐる雁木を歩くとき、スクリーン越しに見える街や港の風景の面白さはありますが、内側にも関心が向くような空間のサービスが少ないため、ただ箱の周りを一周する退屈さも感じました。(周囲の景観がすべて良いわけではありません。)

#### 作品名：【村山市総合文化複合施設「甌葉プラザ」】

村山市総合文化複合施設「甌葉プラザ」は、祝祭広場を中心に計画された施設であることから、単純な複合施設としてだけではなく、広場とそれを囲む建築やその他の配置・スケール等が議論の対象となりました。結果として、それぞれの建築のスケール感、建築空間と広場との繋がり方、地域の祝祭における活動の実績からも意図する計画となっているなど高い評価となりました。

ただ、2階の回遊空間が設計者の意図するような回遊性といった自由度があるか、またロビーや図書館の容積、図書館の光の扱い方、広場を受け止める正面のファサードの大きさなどが意見の分かれるところではありました。

しかしながら、地域にとっての祝祭広場、祝祭広場とロビー、ロビーと多目的ホールの関係等、本施設が目指したと思われる賑わいを生み出す場、空間が高い評価を受け、東北建築賞に値する作品として決定いたしました。

#### 作品名：【水の町屋 七日町御殿堰】

町屋風商業店舗は、前身の「平入り町屋」をデザインモチーフとして、木造の低層建築物として計画されたものです。本計画とは別の事業ですが、御殿堰の開渠化計画とともに、本計画によって新築された町屋風商業店舗とリノベーションされた2棟の土蔵が並み空間に潤いと深みを与えています。この計画によって、これまでに隠れていた裏路地が顕在化し、町屋近辺を賑やかな場としています。

また、複数の店舗と貸しイベントホールとしてまとめ、多くの人々を建物周辺に引き寄せていることは、地域への貢献として、高く評価できます。事業主体は、この地で古くから商売を営む商店主を中心に地元の出資者を募って立ち上げられたものであり、本事業は、他の地方都市に見られる商店街の衰退化を改善する一つの解決策を示したものです。



## 特別賞

### 作品名：【旧仙台領内の300年継承住宅】

民家の移築再生の一事例ですが、設計者は閉鎖的空間になりがちな煙草農家の再生と開放的空間を志向する現代生活とのマッチングに留意しつつ、伝統的な造りの中に快適さを兼ね備えるような空間作りに腐心した様子が分かります。地域の民家様式との乖離を最小限に抑えようとする姿勢とともに、施主のライフスタイルを損なわぬための苦心の跡が随所にかがえます。また、資源循環の有効性についてLCAを通して検証するなど、学術的な側面からも、古民家再生・長期耐用型家造りのありようが提示されています。外見上はデザインの斬新さ、独創性などに乏しいとの印象を受けてしまう面もあるかもしれませんが、それらについても、屋敷林に囲まれた家屋が点在するこの地域特有の景観や、周囲の風景との融合性なども考え併わせれば、必ずしも評価を下げるものとはならないでしょう。新旧部材の混在から感じられる一種のちぐはぐさも、この作品では一つの歴史の記録を示すものと捉えることができると思います。その意味では特別賞に相応しい作品であると言えます。

### 作品名：【あきたチャイルド園】

あきたチャイルド園は、特別賞と評価されました。

コートハウス形式として園庭を園舎で囲い込み、建築自体で園児の領域を明確にすることで、施設に滞在している間の園児の安全・安心に対する配慮が十分に行われています。また、園庭からアクセスする屋上園庭も同様に外部からの不要な侵入等の不安を取り除きながら、結果、二つの園庭を合わせて敷地面積と同等の園庭を有することに成功している点が高く評価されました。また、保護者の安心等、予想される効果も感じられました。

内部も一体とした空間が多様な保育への可能性を感じた点など評価された反面、大空間とすることのリスク、多様な利用に対応する通路空間が確保できるのかなどの懸念も指摘されました。

都市的な保育園としての一つの回答であることは高く評価されたものの、あえて本計画地域で実施することに対する疑問もありました。また、積雪時を中心に年間を通した施設利用が不明な点等で評価が分されました。

### 第32回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長 ・小 山 祐 司 東北工業大学  
安全安心生活デザイン学科  
委 員 ・船 木 尚 己 東北工業大学建築学科  
・最 知 正 芳 東北工業大学建築学科  
・菊 田 貴 恒 東北大学工学研究科  
都市・建築学専攻  
・竹 内 昌 義 東北芸術工科大学  
建築・環境デザイン学科/みかんぐみ  
・三 宅 論 岩手大学  
農学部共生環境課程

・三 浦 秀 一 東北芸術工科大学  
建築・環境デザイン学科  
・恒 松 良 純 秋田工業高等専門学校  
環境都市工学科  
・阿 部 直 人  
(有)阿部直人建築研究所  
・田 畑 光 三  
(株)田畑建築設計事務所  
・板 垣 直 行 秋田県立大学  
建築環境システム学科(常議員)

## 第32回東北建築賞(研究奨励賞)選考報告

審査委員長 浅里 和茂

### 1. 選考経過

第32回東北建築賞研究奨励賞には2件の応募があり、平成23年11月8日に東北支部会議室で選考会を開催した。応募論文は大沼正寛氏の「東北地方の風土醸成型まちづくりに資する建築史・保存再生・建築設計についての一連の実践的研究」と菊田貴恒氏の「ひずみ硬化セメント複合材料の引張特性に及ぼす各種因子と試験方法の影響に関する実験的研究」で、まったく異なる方向性の論文を審査することとなった。本審査に先立ち、専門の近い審査員らによる事前審査が行われ、本審査に進むことが妥当との結論を得た。当日の出席審査員は6名、欠席者には各々に審査報告書および委任状の提出を求めており、報告書は審査の参考とした。また、審査を始める前に賞の性格についての意識統一を審査員間で行い、「奨励賞」という名称からも分かるように“将来性”を“応援する”ものとして選考にのぞむこととした。

### 2. 選考結果

大沼氏の論文は、地域風土と建築の関わり、設計や保存修復のあり方に関するもので、この分野での研究の幅広さを物語るものである。決して多いとはいえない東北の建築文化遺産の保全を図る上でも、これら研究の果たす役割は大きいものと考えられ、研究の継続性や今後の発展については充分期待できるとの結論に至った。

菊田氏の論文は、合成繊維や鋼繊維を混入して作られる「ひずみ硬化セメント複合材料」に関するもので、今後注目される材料であり、その優れた靱性能を構造材料として適用するための、基本的な材料性能を明らかにしようとするものである。そもそもモルタルやコンクリートでは引張性能に期待しないため、引張試験方法や評価方法が定まっていない。そこでいくつかの試験方法、試験体形状による実験により明らかにしようとして試みており、将来性に期待できると判断した。

以上のような議論の結果、審査員会では応募2件が奨励賞に該当することを出席者全員の合意により決定した。

## 第22回東北建築作品発表会報告

常議員 (社会文化) 板垣 直行

平成23年9月24日(土)に、仙台市情報・産業プラザ(アエル)6階セミナールームにて第22回東北建築作品発表会が開催された。本発表会は、東北建築賞作品賞応募者に作品についてプレゼンして頂くものであり、作品賞の1次審査を兼ねると共に、学会と地域社会との交流の推進、建築関係者の研鑽、ならびに東北地方の地域特性に立脚した建築作品の探求を目的としている。本年度は小規模建築物部門10作品、一般建築部門13作品の計23作品と、震災の影響もあるかと思われるが例年に比べやや応募作品が少なかった。発表会においては、まず田中礼治支部長より挨拶があり、その後、小山祐司選考委員長により発表にあたっての注意事項が説明された。その後の発表では、1作品につき8分の短い持ち時間であったものの、設計者から作品のコンセプトやアピールポイントについて充実したプレゼンテーションが行われた。質疑応答も2分という短い時間ではあったものの、活発な議論がなされ、活気のある発表会となった。駅前ということもあり、比較的参加者も多かったが、来年度においては、さらに関係団体、大学などを通じた積極的な案内を行い、より活気のある発表の場にするよう努めていきたい。

## 第31回東北建築賞表彰式及び展示会報告

常議員 (社会文化) 板垣 直行

第31回東北建築賞に関して、6月25日(土)～26日(日)に開催された「みちのくの風2011秋田」の一環として、表彰式および作品展示会が開催された。

展示会では東北建築賞受賞作品およびAIJ東北法人会員、JIA秋田の作品パネルが、2日間にわたって大学コンソーシアムあきたカレッジプラザ 交流スペース・廊下に展示された。東北建築賞の表彰式は、1日目午後の計画系招待講演に引き続き、会場を秋田市IYATAKA 4F ジョージアンWESTに代えて執り行われた。東北建築賞の受賞は、作品賞4点、特別賞2点の合計6点であった。表彰に先立ち、竹内昌義作品賞選考委員長より選考経過報告と講評が行われ、続いて田中礼治支部長より各受賞者に賞状、賞杯が贈呈された。表彰後、受賞者からお礼の挨拶と受賞作品の紹介が行われ、またその後の懇親会では、受賞者を交えて交流が図られた。

本表彰式および展示会は、受賞者並びに作品応募者の方々、秋田支所及び支部の関係者・スタッフ、委員長はじめ選考委員、JIA東北支部の方々の準備と協力により開催することができたものであり、関係各位にこの場を借りて深く感謝申し上げたい。

## 作品選集2012 東北支部選考経過報告

東北支部選考部会長 若松 信行

「震災」の後しばらくしてから、今年の東北に於ける選考は可能なのだろうかと心配になった。応募リストを開いたら応募作品の12作品は震災の影響を受けていない場所であり胸を撫で降ろした。

7月8日、その応募12作品から現地審査対象作品を投票により絞り込んだ。青森1、岩手1、福島1、山形2、宮城2の7作品が選出された。7月19日は青森、岩手の作品を、他の作品は8月17、18、19日の3日間をかけて審査を行った。8月19日午後から最終審査を行い参加審査員全員(櫻井一弥、石垣充、浦部智義、手島浩之、川島芳正、若松信行)一致で6作品を選考した。Aランク4作品、Bランク2作品である。

昨年と違い、作品の規模と用途がガラリと変わり、住宅を含む小規模な作品が選ばれた。今回特に雪国の風土、環境、景観を読み取り作品を作り上げる姿勢が見えて好感が持てた。その中には、少し骨太なディテールを指摘された作品もあったが、その作品性を打ち消すには至らなかった。

「震災」は我々に東北の建築とその景観を再思考する機会を与えたようである。今回の選考はその思いを持って望んだ。

### A ランク

「YGT 山神の家」

「鶴岡市立藤沢周平記念館」

「アーバンネット定禅寺ビル」

「白鷹の家/SNOW LIGHT HOUSE」

### B ランク

「小田切さとる法律事務所」

「猪苗代町体験交流間 学びいな」

## 2011 年度日本建築学会設計競技 東北支部審査報告

審査委員長 松本 純一郎

今年度の課題は「時を編む建築」である。東北支部には 15 点の応募があり、平成 23 年 7 月 20 日に、日本建築学会東北支部において支部審査会が行われた。出席者は新井信幸（東北工業大学）、五十嵐太郎（東北大学）、浦部智義（日本大学）、鈴木孝男（宮城大学）、松本純一郎（松本純一郎設計事務所）の 5 名の審査委員である。委員の互選により審査委員長として松本委員、議事録作成者として浦部委員が選出された。15 作品中上位 5 作品を支部入選とすることを確認の上、審査員全員で全応募作品を審査し、1 審査員につき持ち点 5 票で投票を行った。さらなる議論を経て上位 5 作品を支部入選とした。

甚大な津波被害を受けた港街の復興という難題に正面から取り組んだ「礫層の丘」が 5 票、これからの震災に対抗する左側と、起きてしまった震災を記憶する右側と白黒を対比させつつ表現した「ふたつのはなし」が 4 票を獲得し、まずは支部入選作品として選出された。その後の議論で、都市の中の墓地を日常的な都市空間として有効利用する「とむらいの杜は開華する」、中山間漁村の過疎・限界集落化の解決策をその地の伝統・歴史と照らし合わせながら表現した「島学」、住宅を縫うように配された水路に、ものづくり、移動手段、移送、発電の機能を持たせる「地形継承—水路がつむぐ生活と産業—」の 3 作品が選ばれ、合計 5 作品を支部入選として全国審査に選出することとした。

今回の課題「時を編む建築」は、建築の持つ持続する社会性に焦点を当てた課題であったが、偶然にも起きた大震災が投げかけた課題と重なったことで、震災に関わる提案が多かった。震災をきっかけに、建築の持つ持続する社会性というテーマに対する学生達の再認識に繋がったことは大変意義深い。

## 2011 年度東北支部研究報告会報告

常議員（学術教育） 山本 和恵

2011 年度東北支部研究報告会は「みちのくの風 2011 秋田」として、2011 年 6 月 25 日（土）・26 日（日）の両日、秋田市の大学コンソーシアムあきたカレッジプラザを会場に開催された。震災の影響が心配されたが、発表論文題数は計画系 66 題、構造系 53 題、計 119 題と例年並みの応募が得られ、活発な意見交換が行われた。研究報告会とは別に、初日午後から、西方里見氏（有限会社西方設計）による、計画系招待講演「秋田地域の気候環境に根ざした設計」が行われ、続いて「大きな自然に呼応する建築」をテーマとしたパネルディスカッションが実施された。夕方からは会場を IYATAKA ハーモニーホールに移し、第 31 回東北建築賞表彰式ならびに受賞記念講演会が開催された。2 日目午前には、「東北地方太平洋沖地震の被害」をメインテーマとし、腰原幹雄氏（東京大学生産技術研究所人間・社会系部／准教授）による構造系基調講演「東

北地方太平洋沖地震の被害全体像と学会の対応」、ならびに「東北地方太平洋沖地震の東北地方における被害」をテーマとしたパネルディスカッションが実施された。いずれの企画も多くの参加者を集め、盛況のうちに無事終了することができた。報告会に参加された方をはじめ、準備運営に関わった関係者各位に、深く感謝を申し上げたい。

## 2011 年度日本建築学会東北支部総会報告

常議員（総務企画） 堀 則男

2011 年度の支部総会は、当初は仙台市情報・産業プラザ（AER）を会場とし、関連行事と併せて実施される予定であったが、震災で仙台市内の公共施設は軒並み使用不可能となってしまった。一方、支部規程では 5 月末日までに総会を行うことが定められているため、関連行事のトークセッション、功労者表彰式、懇親会は中止とし、支部総会のみを東北支部会議室を会場として実施することとなった。以下に、支部総会の議事を報告する。

日時：2011 年 5 月 14 日（土） 15:40～16:20

場所：日本建築学会東北支部会議室

出席者：85 名（委任状含む）

資料：

日本建築学会東北支部年報 第 31 号

2011 年度 日本建築学会東北支部総会 式次第

資料 1-1 : 2010 年度 収支計算書

資料 1-2 : 2011 年 3 月 31 日付 貸借対照表

資料 1-3 : 2010 年度 正味財産増減計算書

資料 2 : 会計監査報告書

資料 3 : 2011 年度 収支予算書（案）

堀則男常議員による開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。

### 1. 出席者数及び委任状の確認

出席者 15 名、委任状 70 通、合計 85 名の確認があり、東北支部会員 1155 名の 1/30（39 名）以上に当たるため、本総会が成立することが確認された。

### 2. 支部長挨拶

田中礼治支部長による挨拶があり、今年度の総会及び関連行事が縮小された経緯、震災に対する支部の対応について説明された。

### 3. 議事録署名員の選出

出席者の中から議事録署名員として、五十子幸樹氏及び浦部智義氏が選出された。



### (1) 歴史・意匠部会

部会長 永井 康雄

今年度の活動として、宮城県教育委員会の要請による「雄勝石加工技術伝承活性化事業」と本部研究補助費による「東北地方の建築アーカイブズに関する研究」を二本柱に据えていたが、東日本大震災により根底からの変更を余儀なくされた。前者は調査対象地域が深刻な津波被害に遭い、事業自体の続行が不可能となった。後者は本部の特別の計らいで次年度への継続が許可された。この場を借りて御礼申し上げたい。

さて、今年度は東日本大震災による歴史的建造物の被害調査と復旧支援活動が主となった。4月20日に第一回部会（通信部会）を開催し、調査組織、分担地域、調査内容などについて協議した。建築歴史・意匠委員会の下に災害特別調査研究WGが設けられることとなり、当部会はWGの中で東北グループとして初動調査に取り掛かった。5月29日に第二回部会（於東北工業大学）を開催し、各県の調査責任者から中間報告がなされた。また、文化庁による「東日本大震災被災文化財建造物復旧支援事業（文化財ドクター派遣事業）」が実施されることとなり、建築家協会、建築士会などの建築関連諸団体との合同調査体制について協議した。7月16日に第三回部会（於村田商人やましょう記念館）を開催し、建築家協会と詳細調査方針の確認、土蔵の町・村田の復旧支援調査について協議した。3月29日に第四回部会（於ハーネル仙台）並びに文化財ドクター派遣事業報告会を災害特別調査研究WGとの共催で実施した。

東北6県で調査した歴史的建造物は約2000棟である。この中で保存要望書を提出した荒巻配水所旧管理事務所（支部長名/7月提出）、旧ノートルダム修道院（学会長名、支部長名/11月提出）を後世に伝えられなかったことは残念である。

最後になったが、野村俊一氏（東北大学大学院）、伊藤則子氏（風土建築文化研究室）、速水清孝氏（日本大学）を部会員として迎えることができた。

### (2) 建築計画部会

部会長 石井 敏

建築計画部会の活動も震災対応で始まり終わった一年でした。

震災後、まずは建築計画部会メンバー、他の計画系部会メンバーと情報交換を図りながら、在仙のメンバー（坂口、増田、大沼、新井、山本、巖、石井）を中心に各地での現地視察、情報収集を行いました。4/13に大船渡・陸前高田方面、4/26に石巻・気仙沼方面の現地調査に入りました。視察の内容は「建築計画系3部会合同初動調査報告書」としてまとめ、建築計画委員会の震災WGに情報提供し、全国に発信しました。

5/14には、次世代の計画系プラットフォーム「若手奨励」特別研究委員会（主査：坂口）との共催で、「過疎地域の実践

#### 4. 議事

東北支部規程により、田中礼治支部長が議長を務め、以下の事項について審議された。

##### (1) 2010年度事業及び会計に関する件

###### 1) 2010年度事業

五十子幸樹常議員より、支部年報16～17ページの「2010年度事業報告」に基づき、2010年度事業内容が報告された。

###### 2) 2010年度収支決算

渡邊裕生常議員より、資料1-1「収支計算書」、資料1-2「貸借対照表」、資料1-3「正味財産増減計算書」に基づき、2010年度収支決算が報告された。

###### 3) 会計監査結果

我妻孝幸支部監事より、資料2「会計監査報告書」の通り、2010年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告された。

以上2010年度事業、収支決算及び会計監査結果に関する報告内容について審議した結果、特別な問題指摘もなく、これらの事項が承認された。

##### (2) 2011年度事業及び会計に関する件

###### 1) 2010年度事業計画（案）

浦部智義常議員より、支部年報18～19ページの「2011年度事業計画（案）」に基づき、2011年度事業計画案が説明された。

###### 2) 2010年度収支予算（案）

渡邊裕生常議員より、資料3「収支予算書」が説明された。

###### 3) 災害調査委員会の予算について

田中礼治支部長より、2011.3.11東北地方太平洋沖地震による被害の調査活動において、災害調査研究基金（資料1-2「貸借対照表」参照）を使用することが提案された。

2011年度事業計画（案）及び収支予算（案）、災害調査委員会の予算について審議した結果、特別な問題指摘もなく、原案通り承認された。

以上の議事終了の後、司会者により閉会が宣言され、2011年度日本建築学会東北支部総会を終了した。

以上

なお、支部総会の関連行事としては中止となった、2010年日本建築学会設計競技「大きな自然に呼応する建築」最優秀賞受賞記念トークセッション「大きな自然に呼応した建築」については、6月25日、26日に実施された「みちのくの風2011秋田」において、計画系招待講演＋パネルディスカッションとして実施することができた。

的再生手法「震災復興の現場から考える」を開催。柴山明寛氏（東北大学災害制御研究センター）、北原啓司氏（弘前大学）からのレクチャーをいただいた後、全国から集まった建築計画分野の若手研究者とともに、過疎地域の実践的再生手法を震災復興の現場から考えました。40名を超える参加がありました。

その後、計画系3部会合同で「2011年東北地方太平洋沖地震災害調査速報」の担当章（第3章の「被害統計」、「生活関連の被害」）の執筆にあたりました。また、夏に行われた本部主催の「2011年東北地方太平洋沖地震および一連の地震災害調査報告会」においても、仙台および福岡会場で報告を担当しました（石井）。建築学会大会・研究協議会（建築計画部門8/24）では、部会として「東日本大震災の現況報告と論点提示」を報告しました（石井）。

また、計画系3部会合同調査という形で、「被災地（仙台・石巻）の大学生の当時の避難状況等についてのアンケート調査」を実施、合計約1,000名の学生からの回答を得ました。調査結果は、「東日本大震災からの教訓」（日本建築学会3/2）にて報告しました（石井）。

また、被災自治体での復興や住宅整備の基礎資料を得るための「住民意向アンケート調査・共通フォーマット」を検討・作成、七ヶ浜町、石巻市ではこのフォーマットにもとづき調査が行われました。

学会本部に設けられた「東日本大震災調査復興支援本部」の「研究・提言部会」には、建築計画分野からの委員として巖が参加、学会第1次提言の作成に関わりました。

2011年12月から3回にわたって行われた本委員会企画の「建築計画系震災関連研究情報WG拡大委員会<東日本大が震災について考え・行動する>」では、第1回（12/17）は石井、坂口、巖（司会）が、第2回（3/2）は新井が、第3回は巖（司会）が関わるなど積極的に関与しました。

前任の小野田部会長から引き継ぎ5年間、部会長の任に当たらせていただきました。いろいろとご協力ありがとうございました。震災を契機に、他の計画系部会との連携なども図れる体制が整い、今後に向けて収穫のあった一年でした。

新年度より坂口部会長のものでも新たなスタートを切ります。2012年度の活動としては、3部会合同で2012年度特色ある支部活動企画に応募・採択されています（東北地域の復興課題を抽出する計画系共同研究会：震災まで、そして震災後）。この活動を中心に新たな一年、部会活動を行っていく予定です。これからしばらくは被災地の復興・再生に向けて部会としても関わり、また全国に情報発信することが求められるでしょう。部会メンバーの皆さまには、より一層のご協力をお願いして、今年度の報告とさせていただきます。

### (3) 地方計画部会

部会長 増田 聡

2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地に位置する部会として地方計画部会では、今回の災害からの復興計画の策定過程及び復旧・復興事業の評価、さらには、今後の都市・地域計画制度のあり方、復興まちづくりや住宅地整備の進め方等に関して、部会員による継続的な調査研究を行うとともに、部会としても積極的なコミットを行うことを考えている。

そこで2011年度には、東北支部の計画系3部会の1つとして建築計画・デザイン教育の両部会と共同で、学生の避難行動調査、避難所調査、被害建物調査等を行い、初動調査の結果を踏まえて8月に出版された『2011年東北地方太平洋沖地震災害調査速報』に報告論文を掲載した。加えて、建築雑誌2012年1月号「特集：前夜の東北」の「第3部 3.10の東北—データ編」も担当した。

また他学会との連携活動では、日本都市計画学会東北支部、土木学会東北支部（第4部門）と合同で東北支部学術合同調査委員会に参加し、都市・地域計画分野での被災調査報告や制度提案、復興計画の課題や津波地域づくり法等の勉強会、復興に向けての座談会等を企画運営してきた。

2011年末までには（福島県を除く）多くの被災自治体で復興計画が纏まり、国の3次補正による復興交付金や復興特区等の制度や財源措置の大枠が定まっている。2012年2月には復興庁も設置され、来年度には復興計画（高台移転や復興住宅、インフラ再建など）の実施が本格化するが、場合によっては、計画そのものの一部見直しの機運も出てくるかも知れない。多くの不確実性を伴う状況ではあるが、地方計画部会としては関連団体との連携を進めながら、復旧・復興の諸段階で顕在化する（であろう）計画論的課題について、議論・検討を進めていく予定である。企画提案等あれば、事務局まで、是非お寄せ頂きたい。

### (4) 構造部会

部会長 薛 松濤

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、東北地方の広範囲にわたって甚大な人的・物的被害をもたらしました。構造部会は、地震発生直後に設置された東北支部災害調査委員会に協力するかたちで、主に建物の構造被害について調査を実施してきました。委員のほとんどが被災地に居住しているため、調査は困難を極めたが、その成果を支部のホームページに公表するなど、各自できる範囲で精力的に活動してきました。活動は、調査のみならず、建築会館での緊急調査報告会や、仙台市で開催された東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会第一次報告会への参加、国外に向けての調査結果の発信や、国内外からの調査・視察に対する対応など多岐にわたりました。また、調査結果を取りまとめ、

「2011年東北地方太平洋沖地震災害調査速報」の出版に協力しました。

2012年12月15日には、「耐震と防災の課題を語りあう～これまでの活動を通して感じたこと～」と称して、各教育機関が地震直後から行ってきた取り組み事例や、各委員が感じたことなどを話し合う機会を設けました。そこでは、柴田明徳東北大学名誉教授から、過去の津波被害について、柴田先生自身が集められた貴重な資料をもとに講演して頂きました。また、各校を代表して、数名の先生方から、各機関の地震被害や地震直後からの取組みを、当時の体験談を交えながら話をして頂きました。

今回の地震により、長期間にわたって都市機能が麻痺し、また、委員も被災者である状況下で、的確に初動対応することの難しさを認識しました。今後の活動としては、近い将来発生するとされる、都市直下型地震や東海・東南海・南海地震が発生したときに迅速に対応できるよう、今回の地震で明らかになった問題点を十分に検証したいと考えております。

## (5) 環境工学部会

### 部会長 菅原 正則

環境工学部会は、「東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究」を課題としながら、他分野との連携と地元のニーズへの配慮に留意しつつ部会活動を行っている。その主な内容は、部会開催時に上記に関連する研究者による勉強会の開催と、市民向けあるいは専門技術者向けの研究会・見学会等の開催である。空気調和・衛生工学会東北支部をはじめ関連他団体との共催や、日本建築士会東北支部と相互に活動情報の交換を図っている。東日本大震災発生以降は、空気調和・衛生工学会東北支部、建築設備技術者協会東北支部、電気設備学会東北支部とともに東北地方建築設備関連学協会災害調査連絡会を立ち上げ、設備被害調査を実施した。

今年度の活動を列挙すると下記の通りである。

#### 1. 部会および勉強会の開催

①9/20 第1回部会

②12/1 第2回部会および勉強会「建設におけるエネルギーを軸とした環境技術の現状と将来：竹林芳久先生」

③3/7 第3回部会および勉強会「紫外域日射量推定モデル開発のための検討：細淵勇人先生」

#### 2. 研究会などの開催

①6/13 講演会「オゾン層の過去・現在・未来—地球温暖化との深い関係—」、参加者46名

②6/17 研修会「技術とビジネス・ソリューション 水道配管用継手・建築設備配管材料メーカーの経営・品質改革と人材育成」、参加者11名

③6/27 講習会「2011年夏 中小業務用ビルの節電対策と効果の定量把握<15%節電に向けて建築設備士からの提言>」、参加者41名

④7/19 公開シンポジウム「大震災からの復興とケア 米国と日本との比較から考える」、参加者62名

⑤10/18 見学会「北緯40度ミルクとワインとクリーンエネルギーの町」、参加者30名

⑥3/23 (実施前) 第60回 東北環境設備研究会「東日本大震災・建築設備被害報告と今後に向けて」、参加者85名

⑦3/23 (実施前) 地区講演会「東日本大震災後、避難所の居住性や心のケアでどんな課題があったか?」参加者49名

## (6) 材料部会

### 部会長 板垣 直行

2011年度は震災の混乱が収まらぬままに始まり、前年度末に開催された支部災害調査委員会からの調査依頼を受けて、材料部会においては非構造部材の被害調査を中心に活動を行った。交通の混乱はしばらく続いており、本格的な調査を開始できたのは4月半ば以降であった。また各地域の部会員が一堂に会することは困難であったため、仙台周辺のメンバーを中心に打合せを行い、それ以外の各地域の部会員には地元地域の情報収集をお願いし、メールのやり取りにより調査資料を作成していった。これにより何とか6月末の学会本部発行の速報原稿を提出することができた。

そのようなことで本年度の第1回部会は、状況がある程度落ち着いた7月29日に開催し、各地域の地震被害状況を確認すると共に、これからの調査や情報収集の方針などについて議論した。また、当初は昨年度からの継続テーマである「サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査研究」に取り組み、実教育への適用を考慮した教育ツールの検討を行っていく予定であったが、震災対応を優先することとし、可能な範囲で取り組んでいくこととした。

これらの経緯より、今年度は当初の年間計画と異なった状況となってしまったが、第2回部会は、年度末の3月9日に開催された。第1回部会以降、しばらく間が空いてしまったが、その間の各部会員における震災関係の取り組み状況を確認すると共に、支部発行の震災報告書並びに学会本部材料施工本委員会で取り組んでいる震災における学会2次提言内容を受け、被害調査およびその後の復興に関わる状況に関してディスカッションを行った。また来年度における震災関係の調査研究については、とりあえず各部会員で引き続き情報収集を行っていくとし、今年度取り組むことが出来なかった継続課題を再開していくことを確認した。

## (7) 施工部会

### 部会長 最知 正芳

3月11日の東北地方太平洋沖地震の発生は、当部会に対しても極めて大きなインパクトを与えた。委員の大部分が、大手建設会社の本・支店の幹部であることから、直後より、自社が手掛けた関連施設、その他、物的・人的な被害の把握、各種の災害被害対処に奔走・忙殺されることとなった。反面、それらのアクションは、震災対処に係る貴重な実施事例を残すことともなる。特に、被災に伴う様々な建物被害とそれらへの対応の状況については、今後も起こるであろう地震災害への対処事例として、極めて貴重な実例を示すものとなる筈である。その観点より、当部会では、それらの事例収集と記録の保存に今年度の活動の主力を注ぐこととした。

各委員には、多忙な業務の中においても、事例の収集や記録の確保に努めてもらい、各位の業務に落ち着きを取り戻せるようになった秋以降に、それらを纏める作業を開始した。個別の物件に係る情報の大部分は、内容の公表が困難であるという事情があったため、一般への開示はできないこととなったが、当部会の貴重な内部資料として、年度内に編纂を終える予定である。

一方、予てより当部会では、構成委員の持つ、多様多彩な個人的実務経験の貴重さに着目し、それらを活かす活動についても可能性を探ってきた。そして、部会初の試みとして、教育機関への出前授業を企画し、仙台市内にある大学の建築学専攻の大学院において、試行として、それを実施した。委員各位の施工に関する経験に基づいた貴重な知的財産の開示は、受講した大学院生から好評を得、また、委員からも自身の経験を活かす場としての有効性を讃する意見が寄せられた。本件については、今後の継続性も踏まえ、さらに検討を重ねてゆく予定である。

## (8) 建築デザイン教育部会

### 部会長 相羽 康郎

東日本大震災以降、当部会では計画系の部会と連携して活動を模索してきた。そのなかで当部会は、極めて多岐にわたって当支部が直接間接に関わっている復興支援活動について、地元大学を中心に情報把握を行った。東北6県には建築・土木・生活・環境・教育系の大学が18ほどある(表・都市計画学会誌同掲/○は主に組織的取組み、◇は個別取組みが顕著なことを示す)。全てを把握している訳ではないが、自立的風土と関東関西からの支援受入が目立つ岩手、関係大学が多く県内外の支援が様々に展開されつつある宮城、避難先まで含めた広域で深刻な調査・支援が途についたばかりの福島と、3県3様の現状が浮かび上がる。もちろんこれらは一端でしかないし、震災直後から展開された当支部の精力的な活動をはじめ、大学の垣根を越えた活動こそが重要となるのは間違いない。これらを踏まえ、次年度はとくに、建築計画、地方計画の各部会とともに、協力して震災関連の共同調査研究を進める予定である。

表 東北地方の建築・土木・生活・環境・教育系大学による地域・都市の復興に関する調査・支援活動の実施状況(2012現在)

県	大学名	組織的取組みが顕著	主な対象地						主な取組例*	備考/主な取組主体など
			宮城	青森	岩手	宮城	福島	茨城		
青森 9大学	私前大学	国	○	◇	◇	◇	◇	◇	○江津町連携協定 ○北上駅構内ステーションほか ○地産地消推進 ○海上、陸上高田など	人文学部、教育学部
	未調査の大学(7件)	私	○	◇	◇	◇	◇	◇	○青森公立大、青森県立保健大、私、青森大、東北女子大、八戸大、弘前医療福祉大、弘前学院大	土木建築学科
秋田 6大学	秋田立大学	公	○	◇	◇	◇	◇	◇	○文芸教養、木造、文化財ドクターなど	建築環境システム学科
	未調査の大学(5件)	公	○	◇	◇	◇	◇	◇	○国、秋田大、公、国際教養大、私、秋田看護福祉大、日本赤十字秋田看護大、ノースアジア大	
岩手 6大学	岩手大学	国	○	◇					○岩手県復興計画、津波防災専門 部	農学部・工学部
	岩手県立大学	公	○	◇					○いわてGNGA-NET・ポランティアほか ○心大監理ほか	総合政策学部
宮城 14大学	東北大学	国	○	◇	○	◇	◇	◇	○災害復興・地域再生重点研究事業ほか ○災害復興センター	全学/建築・社会環境工学科、災害研 究センター
	宮城大学	公	○	◇	◇				○地域連携センター、自治体との協定ほか	事業構築学部
山形 5大学	石巻専修大学	私	○						○石巻地域復興共生プロジェクトほか	
	東北学院大学	私	○	◇					○災害ボランティアほか ○石巻カフエ、史料収集ほか	工学部、ライフデザイン学部
福島 9大学	東北工業大学	私	○	◇					○復興大、 ○石巻、仙台、山元ほか	
	東北福祉大学	私	○						○災害ボランティアほか	
山形 5大学	東北文化学園大学	私	○	◇					○仙台国際総合支援、大船渡合宿ほか	
	未調査の大学(7件)	私	○	◇					○宮城教育大、私、尚岡学院大、仙台大、仙台白百合女子大、東北生活文化大、東北薬科大、宮城学院女子大	
山形 5大学	山形大学	国	○	◇	○				○スマイルエンジン、復興学ほか ○文化財ドクター-東北代表ほか	
	東北芸術工科大学	私	○	◇	○				○TRISO、スマイルエンジン、復興学ほか	
山形 5大学	東北公益文科大学	私	○	◇	○				○最新キックアップ調査ほか ○こども学びほか	
	未調査の大学(2件)	私	○	◇					○山形県立保健医療大、私、東北文大	
福島 9大学	福島大学	国	○	◇	○				○総合支援部、未来支援センター ○県内/避難先各地、女川ほか	
	金澤大学	公	○						○赤べこ(派遣)プログラムほか	
福島 9大学	日本大学工学部	私		◇					○津波被害、地震被害調査ほか	
	未調査の大学(6件)	私	○	◇					○福島県立医科大、私、いわき明星大、奥羽大、郡山女子大、東日本国際大、福島学院大	

\*主に日本建築学会復興支援部会情報および各大学WEBサイトより

## (9) 災害調査連絡会

### 部会長 源栄 正人

2011年度は、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に関する継続的な調査、4月6日(東京)と4月23日(大阪)での緊急調査報告会での報告、「2011年東北地方太平洋沖地震災害調査速報」の執筆、および本部災害委員会等との連携に基づいた災害調査報告会の企画・開催に貢献した。

「2011年東北地方太平洋沖地震および一連の地震災害調査報告会」では、源栄正人(東北大学)は、「東北地方の被害」の講師として、8月9日の大阪会場、8月12日の広島会場を担当した。同様に、大野晋(東北大学)は、「地震動と地盤」の講師として、8月4日の仙台会場、8月9日の札幌会場を担当した。

また、2012年3月1日、2日に本部主催で開催されたシンポジウム「東日本大震災からの教訓、これからの新しい国づくり」の企画にあたっては、源栄正人(東北大学)が実行委員会委員として企画に参画するとともに、「地震動と建物被害から見た東日本大震災の教訓—都市・建築の総合的震災防災対策のために—」と題した招待講演を行った。

さらに、2012年3月3日、4日に6学会共催で開催された東日本大震災国際シンポジウム「One Year after 2011 Great East Japan Earthquake International Symposium on Engineering Lessons Learned from the Giant Earthquake」において、源栄正人(東北大学)が「Lessons of the 2011 Great East Japan Earthquake Focused on Characteristics of Ground Motions and Building Damage」と題した招待講演を行うとともに、関係委員が調査研究成果に基づいた一般発表を行った。

国内、海外からの数多くの調査団の受け入れやブリーフィングなども随時、対応した。(報告:佐藤 健 東北大学)



## 支所だより

### 青森支所

#### 青森支所長 盛 勝昭

2011年度の青森支所の活動状況について報告いたします。

6月1日に幹事会を開催し、『建築物の省エネ法等に関する講習会』実務編等の年間事業計画や収支予算等を議決・承認しました。そして、その後も幹事会を2回開催し、講習会の実施に向けて細部を決定してまいりました。

7月8日に開催した『全員協議会』では、幹事会で議決された事業計画を報告し、会員に協力をお願いするとともに親睦を深めました。また、当支所幹事で株平塚建築設計事務所代表取締役の平塚 勝氏より、昨年度に開催した「建築物の省エネ法等に関する講習会」の概要を報告していただきました。

2012年2月9日には、平塚 勝氏を講師に、『建築物の省エネ法等に関する講習会』実務編を開催しました。この講習会は、昨年度の講習会において受講者の方々から、さらに実務的な講習会の要望があったことに応じて開催したもので、講師には、届出のための資料作成などについて、実際に計算しながらわかりやすく解説していただきました。

なお、本講習会では、(社)青森県建築士会、(社)青森県建築士事務所協会の後援をいただきました。

10月9日、10日に、2011年度の『東北建築賞受賞作品展示会』が、八戸工業大学を会場に開催され好評を得ました。

また、2012年6月16日、17日に、「みちのくの風2012 青森」が八戸市の八戸工業大学において開催されます。当支所では、支部と連携し事業の成功に努めてまいりますので、是非、青森にお越しくださるようお願いいたします。

### 秋田支所

#### 秋田支所長 山口 邦雄

2011年度の秋田支所は、「みちのくの風」の秋田での開催に伴う実施協力、及び支所主催の「秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール」の2つを主な軸として活動を展開しました。

「みちのくの風」では、駅に近接したカレッジ・プラザを開催会場に提案し、コンパクトでまとまった研究報告会になるよう開催地の支所として役割を果たしました。また、秋田らしい懇親会を、という要望がありましたので土崎湊ばやしの威勢のよい楽曲も交えての懇親会を企画し、来場された方々に楽しんで頂きました。

第40回を迎えた「秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール」は6校から合計14作品の応募がありました。高齢者の居住施設にソーシャルミックスの視点を組み込んだ作品、環境問題を強く意識した作品、あるいは秋田県で重要となっている地域活性化を全面に打ち出した作品など、社会の動向を敏感に感じとったテーマ設定となっているのが特徴的

でした。また、敢えてフリーハンドで仕上げをして情感を表現した作品、コンピューターによる合成写真を使った作品など、表現方法の多様化が見られました。これら作品は、秋田駅に隣接する秋田市民交流プラザ・アルヴェの1階「きらめき広場」にて3日間にわたり広く公開され、最終日には表彰式と各作品への個別講評が行われました。なお、このコンクールの開催は建築および報道関連の9団体の後援を得て実施しており、開催を通して各団体との連携を深める機会ともなっていることを報告しておきます。



審査会個人採点の写真



表彰式全体集合写真

### 岩手支所

#### 岩手支所長 大水 敏弘

2011年度の岩手支所の活動状況について報告します。

「第31回東北建築賞受賞作品展示会」を、2月25日(土)と26日(日)の2日間、いわて県民情報交流センター「アイーナ」において開催しました。同展示会は、例年、住まいや環境について幅広く情報提供を行う「住まエネフェスタ」と併せて開催しておりましたが、東日本大震災の影響で同フェスタが中止となったことから、今回は単独の開催となったものです。2日間で約200人の来場者がありました。会場となった「アイーナ」は県立図書館や県立大学アイーナキャンパスが併設されており、学生も多いことから、若い世代に建築学会の活動を広く知ってもらう機会を提供すると共に、地域の特性を活かした建築作品に触れる場として、効果的かつ興味深い展示会になったものと考えております。

また、「第35回盛岡市景観シンポジウム」が支所後援事業として11月18日(金)にプラザおでってで開催されました。

今年は「次世代に伝えたい景観」と題して、岩手大学准教授の三宅諭氏による基調講演のほか、「次世代に伝えたい景観」をテーマにパネルディスカッションや盛岡市都市景観賞の表彰式等が行われ、景観の保全や形成に関する幅広い意見が交わされました。

支所では今後とも、建築関係の見識を深めるための行事の開催や後援を通して、地域の建築活動との連携や地域社会との交流を図っていききたいと考えています。



東北建築賞作品展示会（アイーナ）

## 山形支所

山形支所長 相羽 康郎

山形支所活動の柱として、ここ何年か子供や一般の人々に建築の知識・教養を広める目標で取り組みをしています。また本部事業である「親と子の建築講座」も引き続きこの目標に沿って実施しています。

本年度日本建築家協会 JIA 山形と協力し、支所独自の活動と「親と子の建築講座」を実施しました。後者については別途報告するので、前者について報告します。

山形電波高校には建築科があり、出前講座が実現したのは、この協同事業を担当している JIA の幹事が、たまたまこの高校の非常勤講師を務めていたため、高校側に相談を持ちかけていただいたお蔭でした。

日時：9月12日 5, 6校時

場所：天童市山形電波高校

講師とテーマ：二宮正一「長井市の建築保全活用事例報告」、相羽康郎「モダンデザインの流れ」

参加者：高校2年生約50名、先生数名、JIA等外部者数名  
50分ずつの出前講座を実施しました。高校の授業ではとり挙げられていない内容なので、新鮮に受け取ってもらえたことがうかがえました。



## 福島支所 福島支所長 野内 忠宏

2011年度の福島支所の活動状況について報告いたします。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災及び原発事故を受けて、本来であれば専門家集団としてこの大惨事を極めて重大かつ厳粛に受けとめ、学術機関として被害状況の調査・研究や、それに基づく技術的指針の提案と普及などを精力的に行うべきでありましたが、当支所事務局である県建築住宅課が応急仮設住宅の建設や借上げ住宅の提供などの業務に忙殺されたこともあり、このような活動やこれまでのような支所活動を行うことは出来ませんでした。

このことは、長年にわたり当支所が抱えている「事務局を行政機関が担う」という問題が大震災を契機に露呈した結果と考えられます。今後は支所の体制や災害時の活動内容等これらの課題に真摯に向き合い、解決していく必要があると考えております。

しかし、このような中で、当支所所属会員の方々は、被災建築物の応急危険度判定業務、避難所への仮設間仕切り設置、木造応急仮設住宅の建設、被災した歴史的建造物の保存活動など、それぞれの専門分野において実践的な活動を行っていたことをこの場を借りて報告いたします。

なお、支所活動として唯一行いました『第31回東北建築賞受賞作品展示会』は、2月に郡山市にて「JIA福島2011作品展」及び「日本大学工学部卒業設計作品展」と合同で開催いたしました。また、展示会にあわせて「生きるとは何か？」をテーマに一般市民や学生、建築関係者によるフリートークセッションを合同で行い、福島再生・復興における建築の役割や可能性について幅広く意見を交わしました。

当県における原発事故の収束は未だ進んでいない状況ではありますが、今後とも福島再生・復興に向けて、地域の大学や関係団体と連携・協働を図りながら、地域に根ざした支所活動を実践し、さらなる充実した活動に心がけてまいりたいと考えております。



応急危険度判定業務状況





東北建築賞展示会（フリートークセッション）

## 常議員会から

### 常議員（総務企画） 西脇 智哉

常議員会は、支部長と14名の常議員（今年度は13名）で構成される。常議員は、会務を処理するため、常議員会において会務を審議し、議決するものと定められており、東北支部全体の運営を担っている。常議員会は、年2回以上支部長が招集することとされているが、基本的には隔月程度の頻度で開催されている。常議員は、「総務・企画」、「社会・文化」、「会計・会員」、「学術・教育」および「図書・情報」の分担があり、常議員会の開催されない月には、支部長と総務・企画担当常議員からなる総務会が開催されている。今年度は震災の影響や、震災対応行事などもあったが、常議員会が5月・7月・11月・2月（本稿執筆時点では行われていないが3月も実施予定）に、総務会が4月・6月・9月・12月に開催され、粛々と会務の処理を行うことができた。これらの議事録は、東北支部のウェブサイトにおいて一般公開されている。議事の多寡によるが、常議員会はメールによるネットワーク会議とする場合もあり、また、常議員会・総務会ともにインターネットを利用したウェブ会議システムを導入しており、出席者の増加と旅費節減に効果を上げている。

また、例年6月に開催されている支部研究報告会などを行う「みちのくの風」の運営でも中心的な役割と果している。2011年度は「みちのくの風2011秋田」として、2011年6月25日（土）・26日（日）を会期に、大学コンソーシアムあきた・カレッジプラザを会場に開催された。この他、9月には支部長・総務企画担当常議員も出席して、支所長会議を実施し、みちのくの風、東北支部における個人会員・法人賛助会員の動向、新法人制度への対応などについて報告と意見交換を行った。

2011年度の総務会・常議員会で取り上げられた主な議事を以下に示す。

#### 【4月総務会】

会計報告、東北建築賞選考について、2011年度全国大学・工専卒業設計展示会の日程報告、支部総会について、みちのくの風2011秋田について、東北建築賞の募集要項について、2011年度災害委員会支部企画の募集について、環境部会による支部シンポジウム企画について

#### 【5月常議員会】

新旧役員の引継ぎ、年間行事予定、支部総会について、みちのくの風2011秋田について、日本建築学会東北支部災害調査委員会について

#### 【6月総務会】

作品選集2012応募結果について、会計報告、2011年東北地方太平洋沖地震および一連の地震災害調査報告会について、みちのくの風2011秋田について、支部報告論文集について

#### 【7月常議員会】

理事会報告、みちのくの風2011秋田の報告、会計報告、作品選集2012支部審査会の審査経過について、東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会の負担金支出について、東北地方太平洋沖地震および一連の地震災害調査報告会について、日本建築学会設計競技支部審査について、次回みちのくの風について、日本建築学会教育賞の推薦について、支部研究報告会ならびに報告集発刊等について

#### 【9月総務会】

理事会・支部長会議報告、「作品選集2012」審査報告、日本建築学会設計競技支部審査の結果について、東北建築賞の応募報告、東北建築作品発表会について、東北地方太平洋沖地震および一連の地震災害調査報告会の報告、荒巻配水所旧日管理事務所の保存に関する要望書提出報告、会計報告、『建築雑誌』スリム化について、「東日本大震災に関する東北支部合同調査委員会」について、みちのくの風2012青森について、「特色ある支部活動」について、日本建築学会教育賞（教育業績）候補について、日本建築学会大賞業績候補の推薦について、日本建築学会文化賞候補について、作品選集委員会東北支部選考部会内規について

#### 【11月常議員会】

理事会・支部長会議報告、東北建築作品発表会の報告、会計報告、特色ある支部活動の採択報告、マルグリット・ブルジョワ・センターの保全要望書提出報告、みちのくの風2012青森について、支部総会について、代議員および次期支部役員ならびに選挙管理委員会の設置について、2012年度予算について、作品選集委員会東北支部選考部会内規と次期審査員の選出について、設計競技支部審査員について、支部研究報告会の募集要項について、東北建築賞作品展示会について、支部規程ならびに支部選挙細則の改定について

#### 【12月総務会】

会計報告、代議員・支部役員候補者届出について、設計競技支部審査員について、「作品選集2013」支部審査員について、事務局の体制について、東北建築賞研究奨励賞選考委員会について、みちのくの風2012青森について、支部総会・表彰式・懇親会について、日本建築学会大賞の推薦について、支部研究補助費の申請について、東北支部について

#### 【2月常議員会】

会計報告、研究補助費について、東北建築賞作品賞の選考報告、支部長選挙について、東日本大震災復旧復興活動支援調査研究助成プログラムについて、「建築文化事業」開催について、みちのくの風2012青森について、支部総会について、東北建築賞研究奨励賞について

#### 【3月常議員会】 2012年3月29日開催

## 支部役員名簿

### 東北支部常議員・企画運営委員の構成と役割分担

役 割	2011年度 (2011年6月～2012年5月)	2012年度 (2012年6月～2013年5月)
支部長	田中礼治 (東北工大)	若井正一 (日大)
総務 企画	浦部智義 (日大) 堀 則男 (東北工大) 西脇智哉 (東北大) 安部信行 (八戸工大)	西脇智哉 (東北大) 安部信行 (八戸工大) 薛 松濤 (東北工大) 速水清孝 (日大)
社会 文化	松本純一郎 (松本純一郎 設計事務所) 板垣直行 (秋田県立大) 三辻和弥 (山形大)	三辻和弥 (山形大) 渡辺敏男 (盛岡設計同人) 姥浦道生 (東北大)
学術 教育	山本和恵 (東北文化学園大) 新井信幸 (東北工大) ブントラ S. ガン (日大)	新井信幸 (東北工大) ブントラ S. ガン (日大) 八十川 淳 (東北文化学園大)
会計 会員	鈴木博之 (仙台市) 佐々木健二 (JR東日本)	鈴木 博之 (仙台市) 佐々木健二 (JR東日本)
図書 情報	飛ヶ谷潤一郎 (東北大)	クアドラ カロス (秋田県立大) 李 晩在 (仙台高専)
事務局	伊藤章子 瀧 美雪	伊藤章子 瀧 美雪

### 東北支部会員数 (2012年4月2日現在)

名誉会員	2名
終身会員	55名
正会員 (個人)	1125名
正会員 (法人)	39法人
準会員	29名
賛助会員	7法人

### 東北支部監事

2011年6月～2012年5月

我妻孝幸 (JR東日本)

渡邊裕生 (仙台市)

2012年6月～2013年5月

渡邊裕生 (仙台市)

堀 則男 (東北工業大学)

### 東北支部選出代議員

任 期	代 議 員
2011年4月 ～ 2013年3月	相沢清志 (仙台市交通局東西線建設本部建設部長) 五十嵐太郎 (東北大学教授) 月永洋一 (八戸工業大学教授) 浅里和茂 (日本大学教授)
2012年4月 ～ 2014年3月	笹澤正善 (JR東日本(株)仙台支社設備部担当課長) 千葉正裕 (日本大学教授) 前田匡樹 (東北大学教授)

### 研究部会長

研究部会	部 会 長
構造部会	薛 松濤 (東北工業大学教授)
材料部会	板垣直行 (秋田県立大学准教授)
建築計画部会	坂口大洋 (仙台高等専門学校准教授)
地方計画部会	増田 聡 (東北大学教授)
歴史意匠部会	永井康雄 (山形大学教授)
施工部会	笠松富二夫 (仙台高等専門学校教授)
環境工学部会	菅原正則 (宮城教育大学准教授)
デザイン教育部会	相羽康郎 (東北芸術工科大学教授)
災害調査連絡会	源栄正人 (東北大学教授)

### 支所長

支 所	支 所 長
青森支所	盛 勝昭 (株盛興業社 代表取締役)
秋田支所	山口邦雄 (秋田県立大学建築環境システム学科教授)
岩手支所	澤村正廣 (岩手県県土整備部建築住宅課総括課長)
山形支所	相羽康郎 (東北芸術工科大学教授)
福島支所	古河 司 (福島県土木部建築総室建築住宅課課長)

## 2011 年度事業報告

### 〈事務の部〉

総 会	1. 2010 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2011 年度事業計画・予算案	2011 年 5 月 15 日 支部事務所会議室
諸 会 合	総会 (1)、常議員会 (8)、総務会 (5)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞委員会 (1) 設計競技審査会 (1)、選挙管理委員会 (1)、作品選集選考委員会 (2)、	( ) は回数
代議員半数改選	(留任) 相澤義博、小野田泰明、沼野夏生、若井正一 (新任) 相沢清志、五十嵐太郎、月永洋一、浅里和茂	2010 年 4 月～2012 年 3 月 2011 年 4 月～2013 年 3 月
支部長改選	(留任) 田中 礼治	2010 年 6 月～2012 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 五十子幸樹、石川宏之、三宅 諭、浅里和茂、笹本 剛 渡邊裕生、志村直愛 (留任) 板垣直行、浦部智義、飛ヶ谷潤一郎、堀 則男、松本純一郎 山本和恵 (新任) 安部信行、新井信幸、佐々木健二、鈴木博之、西脇智哉 三辻和弥、BuntaraS.Gan	2009 年 6 月～2011 年 5 月 2010 年 6 月～2012 年 5 月 2011 年 6 月～2013 年 5 月
企画運営委員	なし	
支 部 監 事	我妻孝幸、渡邊裕生	2011 年 6 月～2012 年 5 月

### 〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 薛 松濤 構造技術における新しい試み 材 料 : 板垣直行 サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査研究 建築計画 : 石井 敏 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 永井康雄 災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究 環境工学 : 菅原正芳 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 最知正芳 建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 相羽康郎 場所性から建築設計教育を組み直すー東北学生作品と課題の分析と提案 災害調査連絡会 : 源栄正人 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	なし	
支部研究報告会	2011 年度東北支部研究報告会、 研究報告集第 74 号計画系・構造系刊行 発表題目 119 題	2011 年 6 月 25 日～26 日 大学コンソーシアム あきた カレッジプラザ

支部主催 支部共催 イベント	<p>1. 支部主催</p> <p>1) 建築文化週間事業</p> <p>2) 第22回「東北建築作品発表会」の開催(仙台市)</p> <p>3) 第32回「東北建築賞」の選考</p> <p>4) みちのくの風2011秋田</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支部研究報告会と招待講演会</li> <li>・会長支部訪問ならびに記念講演会</li> <li>・第31回東北建築賞授賞式</li> <li>・第31回東北建築賞受賞作品展示会、JIA秋田等作品並びに東北支部法人会員技術報告、建築作品展示会</li> </ul> <p>2. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形会場「中学生のための建築講座」</li> </ul> <p>2) 第31回東北建築賞作品展示会</p> <p>仙台市、盛岡市、山形市、由利本荘市、八戸市、郡山市</p>	<p>2011年9月24日</p> <p>2011年10月～2012年1月</p> <p>2011年6月25日～26日</p> <p>大学コンソーシアム あきた カレッジプラザ</p> <p>2011年11月24日</p> <p>山形県南陽市宮内中学校</p> <p>2011年6月～2012年3月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第31回東北建築賞作品賞</p> <p>作品賞4点、特別賞2点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰3名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 個人会員4名、</p>	<p>2011年6月25日</p> <p>IYATAKA</p> <p>2011年5月15日</p> <p>支部事務所会議室</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員協議会</li> <li>・第31回東北建築賞作品展示会：八戸市</li> <li>・建築物の省エネ等に関する講習会実務編：青森市</li> </ul> <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第31回東北建築賞作品展示会：秋田市</li> <li>・第40回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール</li> </ul> <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第31回東北建築賞作品展示会：盛岡市</li> </ul> <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第31回東北建築賞作品展示会：山形市</li> <li>・親と子の建築講座「中学生のための建築講座」</li> </ul> <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第31回東北建築賞作品展示会：郡山市</li> </ul>	<p>2011年7月</p> <p>2011年10月8日～9日</p> <p>2012年2月9日</p> <p>2011年6月25日～26日</p> <p>2012年2月15日</p> <p>2012年2月25日～26日</p> <p>2011年6月9日～11日</p> <p>2011年11月24日</p> <p>2012年2月16日～18日</p>
刊行活動	<p>支部年報第31号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第74号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集(第22号)発行</p>	<p>2011年5月15日</p> <p>2011年6月25日</p> <p>2011年9月24日</p>

### 〈支部共通事業〉

講習会	<p>支部共通報告会開催</p> <p>2011年東北地方太平洋沖地震および一連の地震災害調査報告会</p>	<p>2011年8月4日</p> <p>仙台国際センター</p>
展示会	<p>全国・大学高専卒業設計展示会</p> <p>山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市</p>	<p>2011年7月～2011年12月</p>
審査会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2011年度支部共通 日本建築学会設計競技</li> <li>テーマ：時を編む建築</li> <li>・日本建築学会「作品選集2012」東北支部審査会</li> </ul>	<p>2011年7月20日</p> <p>支部事務所会議室</p> <p>2011年6月～9月</p> <p>支部事務所会議室</p>

## 2012 年度事業計画（案）

### 〈事務の部〉

総 会	1. 2011 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2012 年度事業計画・予算案・支部規程の改定	2012 年 5 月 12 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、常議員会 (8)、総務会 (9)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技審査会 (1)、選挙管理委員会 (2)、作品選集選考委員会 (2)、研究部会連絡会 (1)	( ) は回数
代議員半数改選	(留任) 相澤清志、五十嵐太郎、浅里和茂、月永洋一 (新任) 笹澤正善、千葉正裕、前田匡樹	2011 年 4 月～2013 年 3 月 2012 年 4 月～2014 年 3 月
支部長改選	(退任) 田中礼治 (新任) 若井正一	2010 年 6 月～2012 年 5 月 2012 年 6 月～2014 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 板垣直行、浦部智義、飛ヶ谷潤一郎、堀 則男、松本純一郎 山本和恵 (留任) 安部信行、新井信幸、佐々木健二、鈴木博之、西脇智哉 三辻和弥、BuntaraS.Gan (新任) 李 晚在、姥浦道生、クアドラ・カルロス、薛 松濤 速水清孝、八十川淳、渡辺敏男	2010 年 6 月～2012 年 5 月 2011 年 6 月～2013 年 5 月 2012 年 6 月～2014 年 5 月
企画運営委員	なし	
支 部 監 事	渡邊裕生、堀 則男	2012 年 6 月～2013 年 5 月

### 〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長]	[テーマ名]	
	構 造 : 薛 松濤 材 料 : 板垣直行	構造技術における新しい試み サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査 研究－実教育への適用を考慮した教育ツールの検討－	
	建築計画 : 坂口大洋 地方計画 : 増田 聡	21 世紀にむけた生活環境の創造 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編	
	歴史意匠 : 永井康雄 環境工学 : 渡辺浩文	災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究	
	施 工 : 笠松富二夫 建築デザイン教育 : 相羽康郎	建築分野における最新技術とその施工法について 場所性から建築設計教育を組み直すー東北学生作品と課題の分析と提案	
	災害調査連絡会 : 源栄正人	東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	・東北地方の建築アーカイブスに関する研究 歴史意匠部会 (研究代表者 永井康雄) ・東日本大震災における東北地方の公共施設の復旧状況と再整備に関する研究 建築計画部会部会 (研究代表者 坂口大洋) ・特色ある支部活動 東北地域の復興課題を抽出する計画系共同研究会: 震災まで、そして震災後		2012 年 4 月～2013 年 3 月
支部研究報告会	2012 年度東北支部研究報告会 研究報告集第 75 号計画系・構造系刊行 発表題目 109 題		2012 年 6 月 16 日～17 日 八戸工業大学

支部主催 支部共催 イベント	<p>1. 支部主催</p> <p>1) 建築文化週間事業</p> <p>2) 第23回「東北建築作品発表会」の開催(仙台市)</p> <p>3) 第32回「東北建築賞」の選考</p> <p>4) みちのくの風2012 青森</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支部研究報告会と招待講演会</li> <li>・パネルディスカッションと見学会</li> <li>・第32回東北建築賞授賞式</li> <li>・第32回東北建築賞受賞作品展示会、JIA 青森等作品並びに東北支部法人会員技術報告、建築作品展示会</li> </ul> <p>2. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座・建築文化週間事業</p> <p>2) 第32回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、由利本荘市、八戸市</p>	<p>2012年9月28日</p> <p>2012年10月</p> <p>2012年10月～2013年1月</p> <p>2012年6月16日～17日 八戸工業大学 八戸グランドホテル</p> <p>2012年10月</p> <p>2012年6月～2013年2月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第32回東北建築賞作品賞 作品賞7点、特別賞2点、研究奨励賞2点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技全支部入選者表彰代表者4名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 個人会員6名</p>	<p>2012年6月16日 八戸グランドホテル</p> <p>2012年5月12日 せんだいメディアテーク</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員協議会</li> <li>・第32回東北建築賞作品展示会：八戸市</li> </ul> <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第32回東北建築賞作品展示会：秋田市</li> <li>・第41回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール</li> </ul> <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第32回東北建築賞作品展示会：盛岡市</li> </ul> <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第32回東北建築賞作品展示会：山形市</li> <li>・「親と子の都市と建築講座」</li> </ul> <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第32回東北建築賞作品展示会：福島市</li> </ul>	<p>2012年7月</p> <p>2012年10月</p> <p>2012年7月</p> <p>2013年2月</p> <p>2012年9月</p> <p>2012年6月</p> <p>2012年11月</p> <p>2013年2月</p>
刊行活動	<p>支部年報第32号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第75号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集(第23号)発行</p>	<p>2012年5月12日</p> <p>2012年6月16日</p> <p>2012年10月6日</p>

### 〈支部共通事業〉

講習会	「建築工事標準仕様書・同解説 JASS24 断熱工事」改定講習会	2013年1月予定
展示会	全国・大学高専卒業設計展示会 山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市	2012年6月～2012年12月
審査会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2012年度支部共通 日本建築学会設計競技 課題「あたりまえのまち／かけがえのないもの」</li> <li>・日本建築学会「作品選集2013」東北支部審査会</li> </ul>	<p>2012年7月 支部事務所会議室</p> <p>2012年6月～9月 支部事務所会議室</p>



## 法人・賛助会員

阿部建設(株)	(株)山下設計
(株)大林組	(株)梓設計
(株)関・空間設計	(株)伊藤喜三郎建築研究所
(株)奥村組	東日本興業(株)
鹿島建設(株)	東北ポール(株)
(株)久米設計	(株)昂設計
(株)熊谷組	(株)みちのく設計
清水建設(株)	千田総兵衛建築事務所
仙建工業(株)	(株)本間利雄設計事務所+ 地域環境計画研究室
大成建設(株)	(株)清水公夫研究所
(株)竹中工務店	東日本旅客鉄道(株)
戸田建設(株)	東北電力(株)
(株)ユアテック	(株)NTT ファシリティーズ
西松建設(株)	有限責任中間法人 東北空気調和衛生工事業協会
(株)間組	日刊建設産業新聞社
(株)フジタ	東北文化学園大学
堀江工業(株)	
前田建設工業(株)	
(株)ピーエス三菱東北支店	
(株)三菱地所設計	